



■■ ヨサファット教授、インドネシア政府国民賞を受賞 ■■  
～ Ikon Apresiasi Prestasi Pancasila Tahun 2019 ～



授賞式にのぞむヨサファット教授

2019年8月12日、第74回インドネシア共和国独立記念日(2019年8月17日)の記念として、インドネシア政府 Badan Pembinaan Ideologi Pancasila の通達(BPIP 2019年10番)によって、74名に国民賞(Ikon Apresiasi Prestasi Pancasila Tahun 2019)の授与者を発表しました。授与者は科学技術・イノベーション部門17名、スポーツ部門9名、芸術・文化部門22名、社会エンタプレナー部門26名でした。当センターのヨサファット教授は科学技術・イノベーション部門で受賞しました。ヨサファット教授は1990年に来日し、永年にわたりインドネシアと日本の科学技術・イノベーション分野の架け橋になって、リモートセンシング分野における両国の若手研究者をはじめ、学部生、大学院生の交流の推進に努めたことなどをインドネシア政府が高く評価して、この国民賞の授与につながりました。

第16回アジア・オセアニア地球科学学会において  
近藤雅征特任助教が Kamide Lecture Award を受賞

第16回アジア・オセアニア地球科学学会(Asia Oceania Geosciences Society: AOGS)が7月28-8月2日にかけてシンガポールで開催されました。AOGSは、地球科学に関わる分野(大気科学、地質学、海洋学、惑星科学、陸域生態学など)を広く扱い、アジア、オセアニアの研究者が中心となって発展させてきた学会です。2003年に発足されてから今年で16年目になりますが、近年では国内外から約3000人の研究者が参加し、活発な議論・意見交換をする場となっています。AOGSでは、毎年、其々の研究分野において卓越した研究成果を持つ研究者を選出し表彰を行っていますが、今年は、Biogeoscienceの分野から近藤雅征特任助教(筆者)が選出されました。受賞にあたり、"The Role of CO<sub>2</sub> Fluxes by Land Use Changes in Recent Terrestrial Carbon Balance"と題し、土地利用変化による二酸化炭素の排出傾向、また、土地利用変化後に再成長した植生による二酸化炭素の吸収傾向、について講演を行いました。近年、諸

外国に比べ、国内における生態学や炭素循環研究が劣勢の中、このような賞を頂けたことは非常に嬉しいことです。また、昨年に引き続き CEReS から楊偉特任助教、近藤雅征特任助教（筆者）がそれぞれセッションを主催し、国内外の参加者から多くの発表を募ることができました。来年度の AOGS はスキーリゾートでも知られている洪川（韓国）で開催されることが決まっており、楊・近藤共にセッションを主催する予定です。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

（文責：近藤雅征）



受賞をうけて講演を行った近藤雅征特任助教

会場スクリーンに映し出された AOGS の開催広告

## エスペック地球環境研究・技術基金 エスペック環境研究奨励賞受賞 ～ 研究室便り 市井研究室：山本雄平特任助教 ～

令和元年 8 月 23 日に大阪のエスペック株式会社本社にて「公益信託エスペック地球環境研究・技術基金 第 22 回（2019 年度）授与式」が開催され、奨励賞を賜りました。この賞は、地球環境問題の解決に向けて将来の貢献が大いに期待できると認められる研究に贈られるものです。対象となった研究テーマは「次世代気象衛星ひまわり 8 号と機械学習技術を用いたアジア・オセアニア地域における地表面温度観測システムの開発」です。地表面温度は、砂漠化や干ばつ、植生変動、猛暑、都市ヒートアイラ



ンド現象といった様々な環境問題の解決に重要な情報です。私は、新世代の地球観測衛星である「ひまわり 8 号」の波長分解能の高さを利用した、従来よりも高精度な地表面温度推定手法の開発を試みています。今回の受賞を励みに、今後もアジア・オセアニア諸国の環境問題に大きく貢献できるよう、提案手法の開発に取り組んで参ります。

（山本雄平）

授賞式の写真はエスペック株式会社様より提供を受けたものです。

**今号は 3 名の受賞を紹介しました。ますますの活躍が期待されます。受賞おめでとうございます。**